

オンデマンド型授業におけるアクティブラーニング型授業実践報告

杉田郁代

高知大学 学び創造センター

1. はじめに

本授業(以降は授業と表記)は、2019年度から、四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業)の共同実施科目として開講している。授業は、2学期に2単位分の授業として全15回実施している。実施方式は、Moodleを活用したオンデマンド型授業である。

授業は、Moodleの掲示板機能とオンライン会議アプリツールを用いて、アクティブラーニング型授業を行った。

本発表では、2022年度の授業において、実践したアクティブラーニング型授業の内容の説明と考察を行い、今後の授業改善につなげる。

2. オンデマンド型授業におけるアクティブラーニング型授業とは

最初に、筆者がオンデマンド型授業でアクティブラーニング型授業を実施する際に参考とする「アクティブラーニング型授業」について説明する。

授業は、アクティブラーニングの定義「一方向的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う」(溝上、2014)を踏まえて、アクティブラーニングを取り入れた授業であるアクティブラーニング型授業実践である。したがって、授業では、書く・発表するなど外化活動を取り入れる。また、話す活動の代替活動として、書く・発表する活動を取り入れる。

3. 本授業の内容

3.1. 外化活動①

第1回授業時にアイスブレイクを実施

授業は、四国5国立大学に所属する学生を対象とすることから、授業全体の受講生の特徴を理解してもらうためにアイスブレイクを導入した。アイスブレイクは、オンライン会議アプリツールMiroを用いて、匿名で付箋紙に、「受講している場所(市町村単位の名称)を書き込んでください」と記述を依頼した(図①)。アイスブレイクは、「受講生の緊張をほぐす」(小林、2015)役割があることから、他の受講生の存在を確認することによって、授業に対する緊張をほぐしたいと考え導入した。

「初回の授業は、学生にアクティブラーニングを促す雰囲気をつくる上で、重要な機会」(小林、2015)であることから、第1回授業時にオンラインツールを用いて、アイスブレイクを行った。

授業の初回に行うアイスブレイクの役割として、他の受講生を理解してもらうために、匿名でオンライン会議アプリツールMiroを用いて、投稿を行ってもらった。その投稿により、他大学の受講生と一緒に学んでいることを理解してもらえたのではないかと考える。

3.2. 外化活動②

第11回の授業では、所属する大学と他大学のピアサポートの取り組みについて理解を深めることを目的に、Moodleの掲示板機能を用いて、所属する大学のピアサポート活動について、調べて報告する投稿を行ってもらった(図②)。また、他者の投稿を読ませる工夫として、他者の投稿へのコメントを投稿することを求めた。これにより、所属する大学と他大学のピアサポートの取り組みについて理解を深めてもらおうと考えた。

掲示板機能を用いる際は、自己の投稿で終わらせるのではなく、他者の投稿を読んで、意見を述べるまでを一連の過程として設定した。それに

より、2大学の取り組みを比較してもらいたいと考
 えた。投稿を確認すると、所属大学にないサポ
 ートについて触れる投稿が多く確認できた。

4. まとめと今後の展開

2022年度に実施したオンデマンド授業におけ
 るアクティブラーニング型授業について、授業で
 行った外化活動を整理し考察を行った。

その結果、対面授業やオンライン授業と同様に、
 アイスブレイクを取り入れることによって授業
 に学生を巻き込むことができることが確認でき
 た。また、初回の授業にアイスブレイクを導入す
 ることによって、学生が参加しやすい雰囲気を作
 ることもできることが分かった。

学生を授業に巻き込む際に気を付けたい点は、
 名前の表記である。具体的には、Moodle上の機能
 である掲示板を用いる場合は、名前が表記され
 た状態の投稿である。ゆえに、学生にとって抵抗
 があるように感じた。一方、オンラインツールを用
 いて匿名で投稿する方法には、多くの学生が記述
 していることが確認できた。しかし、匿名で投稿

された場合、評価の対象にならないという課題
 が生じる。よって、授業内容次第では、匿名で多
 くの学生から意見を集めて、それを教材にするの
 ことも考えられる。

オンデマンド型授業は、動画を視聴し、その内
 容について課題提出を求める授業形態が多いと
 考えられる。その結果、学生と教員のやりとりで
 完結する。しかし、それを補完する方法としてオ
 ンデマンド授業において、講義にかかわる外化活
 動を取り入れアクティブラーニング型授業にす
 ることによって、学習者を能動的な学びにいな
 うことができるのではないだろうか。

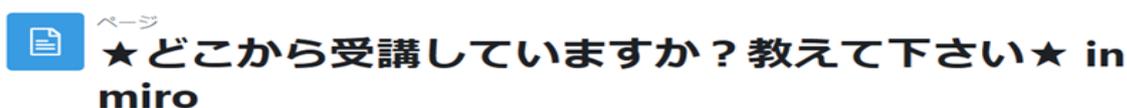
5. 引用文献

溝上真一(2014)「アクティブラーニングと教授
 学習パラダイムの転換」 東信堂

小林忠資(2015)「初回の授業で学生を巻き込む」
 『アクティブラーニング』中井俊樹編著 玉川大
 学出版部

図①

ピア・サポート理論と実践 知ブラ / ★どこから受講していますか？教えて下さい★ in miro



図②

【投稿必須】 所属する大学のピアサポートの取り組みを紹介してください。

所属大学のピアサポートの活動について、紹介してください。

- ① 1人1つ以上、新規投稿を行ってください。
- ② 他の履修生の投稿に1つ以上、返信してください。
 (※他の履修生の投稿がない場合は、何日かおいて再度このページを確認してください。)

【投稿の書き方】

1. 「新しいディスカッショントピックを追加する」をクリック
2. 「件名」には**大学名**と内容を表す題名を記入する
3. 「メッセージ」に上記の**内容・感想・意見**を書く
 できれば、その施設の方とお話して、聞いたお話をまとめると、さらに良いです。
4. 「フォーラムに投稿する」をクリック

【返信の書き方】

1. 他の履修生の投稿を表示し、内容を確認する
2. 投稿内容の右下にある「返信」をクリック
3. 返信内容を書く
4. 「フォーラムに投稿する」をクリック